



太陽の家

太陽の家の理念

No Charity, but a Chance!

～保護より機会を～



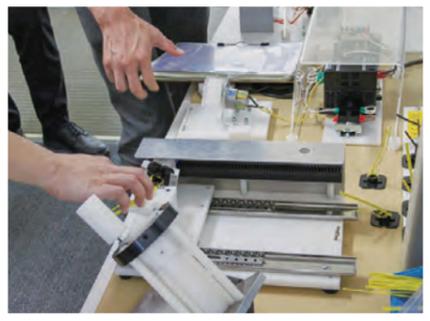
この「**機会**」には、「働く**機会**、自立する**機会**、スポーツをする**機会**」など、さまざまな願いが込められています。

日本以外の国にもこの理念を広めたいとの思いから英語で書かれているんじゃないよ



大分県別府市に「社会福祉法人 太陽の家」があります。

太陽の家は、1965（昭和40）年10月に中村医師によって創立されました。



片方の手で作業ができるよう工夫された作業台



職能開発の紹介コーナー

中村医師の言葉

「世に身心障害者があっても仕事に障害はありえない」

この中村医師の言葉に賛同した多くの企業家によって、太陽の家との共同出資会社が作られました。現在8社ある共同出資会社では、多くの障がいのある方を雇用しています。

また、就労訓練のためのさまざまな仕事を提供し、協力企業もあり、多くの方が仕事をするための準備をしています。

太陽の家の周辺では

共生のまちづくりがおこなわれています



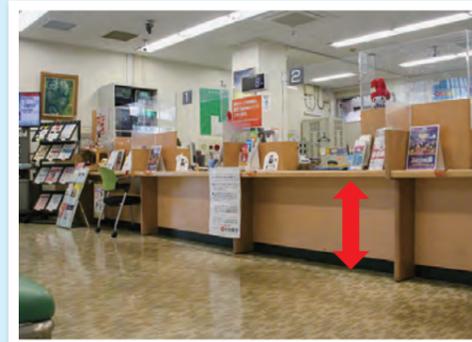
信号機の押しボタンの位置が低い



道路と歩道の段差がない



手の届かない最上段はボタンで購入可能自動扉で取り出しやすい



銀行のカウンター、スーパーの商品棚やレジは低く通路も車いすが通りやすいよう広くとられている



おおいたこくさいくるま

大分国際車いすマラソンは世界で最も有名な大会です

車いすだけのマラソン国際大会として世界最高レベルなんじゃ



太陽の家では、地域の方も参加してスポーツ活動をおこなっています。

共同出資会社で働いている人から「別府大分毎日マラソンをいっしょに走りたい」という願いを聞いた中村医師は、その願いをかなえるために尽力しました。

この活動が国際障害者年の1981（昭和56）年、「大分国際車いすマラソン」の開催につながり、現在もこの大会は開催されています。



大分国際車いすマラソン メダル